

平成24年12月定例会一般質問表

12. 10、11、12

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
1	3 番  船 山  利 美  議 員	<p>1. 南陽市の人口減少対策を考える提言とその関連について 人口減少問題は市の維持や未来への存続をも危惧される重要な課題で諸先輩も度々懸念を提起しております。また、5次総で人口減少時代に立ち向かう方策を市長も述べており、その施策として「教育・産業・健康のまちづくり」を展開し、「住んでみたくなるまち」を目指すものだと考えます。そのためには「安定雇用」・「子育て環境」・「居住環境」は不可欠で、その中の安定雇用は最も重要な項目ではありますが、一方で現代の交通事情等を考慮すれば、通勤可能範囲が広がり定住率向上には少し疑問が残ります。そこで、「子育て環境」・「居住環境」がポイントになると考えます。</p> <p>(1) 子育て環境について 家庭を持ち子供が生まれ、第2子・第3子との想いはあっても今の社会環境を考慮すれば躊躇してしまうのが現実です。そこで、子育て支援都市宣言している本市として他自治体との違いを表面に出して推し進めるべきではないかと考えます。</p> <p>① 南陽市で子育てしたい環境づくりとして、保育園・幼稚園・児童館など、就学前児童について現行は第4子以降の保育料・給食費が免除になっておりますが、ごく限られた世帯になります。そこで、財政負担も伴いますが、所得制限などを考慮しながら第2子については定額助成、第3子以降は全額免除となるような、近隣より1歩・2歩進んだ子育て支援として、出生数増加の方策が必要だと思っておりますが、見解をお伺いします。</p> <p>② 「子育て支援医療給付事業」について、諸先輩も以前より質問しておりますが、8月17日の中学生議会でも南陽市の人口減少を懸念し義務教育までの医療費無料化を提案しております。この事業については他自治体と比較しても、進んでいるとはいえ、財政負担やペナルティの課題も認識した上で、義務教育までの医療費無料化は、定住率の向上には必要と考えますが、見解をお伺いします。</p>	市長 教育長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
1	3 番 船 山 利 美 議 員	<p>(2) 居住環境について</p> <p>南陽市の人口は減少の一途を辿っておりますが、一方で核家族化などが進んで世帯数は増加しております。一世帯当りの人数は減少しているにも関わらず、世帯数が増加している背景として、医療機関の数が多い、更には身近に温泉・大型店があるなどで、安心と便利という点では南陽市は住みやすいまちとも言えます。</p> <p>また、日常生活の中で人との繋がりを円滑にコーディネートし定住するための接着剤として大きな役割を果たすのが各公民館の「まちづくり」や「生涯教育」ではないかと考えます。</p> <p>① 人口減少に歯止めをかけるためには、世帯数の拡大を図ることは不可欠で、住みやすいまちとして定住するためにも、宅地や団地などの住居が必要となります。民間との関連もあるかと思っておりますが、行政としてどのように考えておられるのか、お伺いします。</p> <p>② 南陽市は教育日本一を標榜し、各層で多種にわたり施策を展開し実践しておりますが、ここに住んでよかったと思える社会教育の一環として、新たに全国に発信する「特色ある地域づくり事業」は3事業を計画している旨、6月に質問し答弁を頂きました。その進捗状況や成果について、また、今後の展望についてはどのように考えておられるかお伺いします。</p> <p>2. 中国南陽市との友好都市関係について</p> <p>本市と中国南陽市とは1988年に、友好都市関係を締結し、数々の交流を積み重ね友好関係を構築してきました。今年も8月に日中友好交流都市中学生卓球交歓会へ参加し、友好の絆を深めてきたばかりですが、その後に不安定な状況が深刻化し今後に向けて交流関係が危惧されます。中国は経済成長が著しく、これからが中国南陽市との信頼関係を密にし、相互の文化やブランドをとおして観光交流などを楽しみにしている市民も多いのではないかと思います。</p>	市長 関係課長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
1	3 番 船 山 利 美 議 員	<p>(1) 中国南陽市から交流に関する何らかのメッセージ等はあるのでしょうか。</p> <p>(2) 今後、民間を含めた相互交流等の計画などは考えておられるのか、また、本市と中国南陽市との将来に向けた友好都市関係の在り方についての見解をお伺いします。</p>	
2	2 番 高 橋  一 郎 議 員	<p>1. 風水害対策について</p> <p>(1) 水害危険区域の防災環境について  洪水ハザードマップ（南陽市地域防災計画の風水害対策）を見ると、吉野川については50年に1回程度の大  雨により堤防が決壊した場合の浸水深が一目瞭然で、南  陽警察署を含む赤湯の区域は0.5m～1mが多く予想  されています。  昨今の局地的ゲリラ豪雨がいつおきるとも限らない  中、堤防決壊が起こった場合、吉野川が町の中を流れる  赤湯地区は甚大な被害にあうことが危惧されています。  災害を未然に防ぎ民生の安定のために、重要事業にな  っている吉野川河川改修事業の推進や気象情報の伝達  手段としてのサイレン設置など防災対策をこれまで以  上に積極的に取り組むべきだと思いがいかがでしょう  か。</p> <p>2. 地域を活性化する実践的なまちづくりについて</p> <p>(1) 市役所を核としたまちづくりについて  昭和42年に合併し本市が誕生してから45年にな  り、昭和57年に市役所が現在地に移ってから30年にな  ります。大方の市は市役所を中心にして発展していま  すが本市の場合は、そうではないのが現状です。  それは、フラワー長井線と国道113号に挟まれたう  え、東西の交流ができない立地にあります。  市長は新文化会館を市役所南に建設して、町づくりを  したいと公言されておりますが、その前にフラワー長井  線を東西に跨ぎ、県道赤湯宮内線と国道113号がつな  がるのが先決です。  赤湯、宮内、沖郷とつながり市役所を核としたコンパ  クトシティをつくることは、本市の発展と活性化には  重要な施策と思っておりますがいかがでしょうか。</p>	<p>市 長 関係課長</p> <p>市 長 関係課長</p>

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
2	2 番  高 橋  一 郎  議 員	<p>3. ボランティアの町づくりについて</p> <p>(1) 雪下ろしのボランティアネットワークに関して          昨年の大雪では、高齢者の雪下ろしにおける落下等の事故により大きなけがをした方が本市においてもありました。          私も一市民として、特に一人暮らしのお年寄りの雪おろしボランティアを昨年から携わりました。          若狭郷屋地区では10年前からボランティアによる雪下ろしが実践されています。          それを本市全体に波及しようと助け合いの会を企画し、公助では難しいところを共助のボランティアとして取り組んでいます。          行政としても積極的に啓蒙し支援し、ボランティアによる日本一の福祉のまちづくりにすべきだと思いがいかがでしょうか。</p>	市 長
3	7 番  吉 田 美 枝  議 員	<p>1. 子どもの教育環境の更なる充実を求めて</p> <p>(1) 要保護・準要保護児童生徒の就学援助について</p> <p>① 全児童生徒に占める準要保護児童生徒の援助率はどれくらいか。</p> <p>② 県内自治体と比べた場合の運用状況はどうか。</p> <p>③ 就学援助制度の保護者への周知はどのように行っているか。</p> <p>(2) 日本の子どもの相対的貧困率は14.9%で、7人に一人が貧困状態にある。特に母子世帯の子どもの貧困率が突出して高い。親の収入が少ないと十分な教育費を捻出できなかつたり、親が仕事で忙しく子どもに関わる時間もなかつたりすると、子どもは勉強・進学・就職に興味や夢を抱けなくなってしまう場合もあり得る。          全国では貧困の「負の連鎖」を懸念する声も聞かれるが、当市の状況はどうか。          お伺いいたします。</p>	市 長 教 育 長 関 係 課 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
3	7 番 吉 田 美 枝 議 員	<p>(3) 2001年香川県の小学校で当時の竹下校長先生が始めた『弁当の日』。年に数回、子どもが自分で食べる弁当の献立作り、買出し、調理、弁当箱詰め、片付けのすべてを一人で行うという食育の取り組み。親が手伝わないことで一人前になりたいという子どもが本来持っている「生きる力」を育てようというもの。全国の小中学校、高校、大学、地域へと『弁当の日』の取り組みが広がっていき、今年4月現在で、実施校が全国で1000校を超えるまでになっている。高島町でも既に6校の小中学校で取り組みが始まっているとのことである。</p> <p>食農・食育教育の実践として、当市では『弁当の日』の取り組みについてどう考えているかお伺いいたします。</p> <p>2. 子育て支援の更なる充実を求めて</p> <p>(1) 核家族に晩産化、さまざまな要因の影響で、出産後間もない最も助けが必要な時期にも実家を頼れない母親が増えているといわれる。</p> <p>全国の児童虐待死の約6割が生後1年未満。その半数は1ヶ月以内に起きている。</p> <p>社会や地域から孤立し、一人で慣れない子育てを強いられている母親の相談相手や育児不安を解消するためにも、家事や育児のお手伝いをする産後ヘルパーは大切な役割を担うとされる。</p> <p>当市では産後ヘルパー派遣事業についてどう考えるかお伺いいたします。</p>	市 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求 め る 者
4	1 番 白 岩 孝 夫 議 員	<p>1. 本市の少子化対策と不妊治療助成について 本市第五次総合計画の戦略の柱である「教育」「産業」「健康」のまちづくりを推進する中で、本市では前期基本計画の「健康のまちづくり」の施策基本方針として「安心して結婚できる環境や子どもを産み育てやすい環境を整えます」と謳っています。 具体的に産み育てやすい環境作りを推進していく上で、結婚していても妊娠が困難な不妊症に悩む若い夫婦が近年増加していることを踏まえ、本市における総合的な少子化対策、人口減退に歯止めをかけ、本市に定住する若い夫婦を支援する施策を促進する趣旨で、少子化対策の現状や、不妊症増加の状況や課題などの認識について、以下の点をお伺いします。</p> <p>(1) 本市での少子化の現状について</p> <p>(2) 本市での少子化対策に関する取り組みの現状と課題について</p> <p>(3) 全国的に増加している不妊症に関する現状認識について</p> <p>(4) 不妊症に関する本市での相談窓口や、対応・支援する体制の現状について</p> <p>(5) 具体的で有効な少子化対策として、特定不妊治療費助成を自治体が上乗せして行うことの必要性に関する認識について</p> <p>(6) 抜本的な不妊症増加対策の一つと考えられる、妊娠適齢期など妊娠出産に関する義務教育期間中における教育の現状と、その充実を図る必要性について</p>	市 長 教 育 長

受付順	質問者	質問項目 ・ 要 旨 ・ 内 容 1、2、3、・ (1)、(2)、(3)・・・ ①、②、③・・・	答 弁 を 求める者
5	15番 佐藤	<p>1. 来年度の予算編成について</p> <p>(1) 来年度の予算編成の基本は。</p> <p>(2) 来年度の重点施策は。</p> <p>(3) 各地区で行われているいきいきトーク、お茶の間市長室で提案されている意見、市に対する要望は何件ぐらい出ているのか。また、内容はどのようなものか。どの程度実現されているのか。</p> <p>(4) 各地区から提出、提案されている要望はどのようなになっているのか。また、来年度予算にどう反映させるのか。</p> <p>(5) 税収の見通しは。</p> <p>(6) 長引く不況が続く中で地元商工業者の営業とくらしをどう守っていくのか。また、福祉と医療、子育て支援と教育、農業、観光等々の施策はどのように考えておられるか。</p>	市長
	明議員	<p>2. 市の雇用状況の実態と対策について</p> <p>(1) 正規雇用者。</p> <p>(2) 派遣労働者。</p> <p>(3) 失業者。</p>	市長